こんなところに仏教用語

身近な仏教用語を紹介しています。

甘露

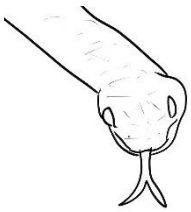
甘露煮、甘露梅、カンロ飴。甘露は、甘いという意味で用いられます。

仏教伝来以前の中国では、皇帝が善政を行うと甘露の雨が降ると伝えられていました。

インドでは、お釈迦様以前から、神々への供物として、糖と小麦粉、牛乳、バターを練ったものを捧げ、万能薬であり不死の薬や酒でした。ソーマやアムリタと言われ、不死を願った蛇がアムリタを舐めようとしたら刺激で舌が二股に別れ、以来蛇族の舌は二股になったという伝説もあります。

このアムリタを中国では、甘露と意訳をしました。甘露は最高の甘味であることから、娑婆の苦しみからの解放である涅槃を甘露門といい、大慈悲である阿弥陀仏を甘露王といいました。

インドの伝説では、ラーフという悪魔がアムリタを飲み、ヴィシュヌ神が首を切り落としましたが、アムリタの効能で死なずに、日食と月食を起こす二つの悪魔の星に変わったとあります。日食月食という現象は、古代の人々にとっては悪魔の所業に見えたのでしょう。



スイカの芽が出た！

若佐取

帰依

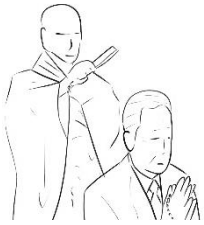
南無帰依僧

厳かな西本願寺や築地本願寺の本堂で、南無帰依仏　南無帰依法

とお剃刀をされた方は幾人かおられるのではないでしょうか。法名は、葬儀の前に住職が付けると思われていますが、本来は生前、本願寺などで頂くものなのです。これから仏法を拠り所として生きていきますと法名を頂く儀式を、帰敬式といい、剃刀をうなじに当てることからお剃刀ともいいます。僧侶が得度式でお剃刀をする時には、本当に剃ります。

その際、前述の南無帰依～と、三帰依を称えます。帰依とは、拠り所とする、信順する、たよりとするという意味です。仏を拠り所とします。法（教え）を拠り所とします。信奉する集団（サンガ＝僧）を拠り所とします。と、宣言をするのです。

お釈迦様の遺言に、「自帰依、法帰依」と説きます。「私が滅した後は、自らを拠り所としなさい。法を拠り所としなさい」と。この時の自らとは、法（教え）を拠り所とした自分ということです。

皆様は何を拠り所としていますか。それは、永遠なるものですか。

仏　法　僧